

別府大生活 工藤 隆子
○片岡千鶴子
生野 郁子
久米 譲

1. ソサイ類の価格は米価の問題などとともに論議が沸騰し、生産と消費、流通経済の種々の観点、立場から活発に研究が進められているが、いま、逆に消費者の側にたった場合、その基調となるべき態度は、購入の目的は食べるためであり、人体に必要な栄養素を摂取するためであって、演者らは、これに腐敗性、貯蔵性、加工・調理などを加味したいわゆる食品学的立場からさらに掘り下げたソサイ類の価値評価を検討したい。

2. 青果卸売市場で取り引きされるやく60種のソサイ類を、演者らの提案した V. C 単価方式によって評価した場合その順位は市場価格の順位とは非常に異なり、ここに幾多の問題が提起された。これらの解決のため、必要条件を設定し実験計画を組み、ヒドラジン法による V. C の分析をこころみるなど、統計学的処理によって解決をはかった。

3. 第1報はおもに市場と調理・加工法の調査の結果

および考察で、ソサイ類は経日的に V. C は低下するが、反対に市場価格はますます高価となる矛盾を示す。調理・加工もその方法によって破壊の程度を異にする。第2報は提起された問題について、順次検討を進めたもので、実際のソサイ類に含まれる V. C は、日本食品標準成分表の数値から相当にかけはなれ、品種、産地、季節、部位、環境などで大きな変動があり、そのバラツキの幅も明示されていない。このため成分表の数値の信頼性を非常に低くしている。